

地域フォーミュラリ策定を見据えた医薬品適正使用の推進に向けた DI連携の取り組み

堺市薬剤師会副会長 鹿嶋隆行

【利益相反の開示】

私は今回の演題に関して開示すべき
利益相反はありません。

(背景)

- 本邦は超高齢社会を迎えており、生理機能低下による用量調節、ポリファーマシー対策、有害事象対策等の高齢者に対する医薬品適正使用の推進が重要となる。
- 近年の調剤報酬においても、薬剤師業務が「対物」から「対人」業務へシフトすることが明確となった。
- 一部の地域では、有効性、安全性に経済性を加えた地域フォーミュラリの導入に向けた取り組みがなされている。

(目的)

- 堺市薬剤師会では、薬剤師法第1条に立ち返り、地域住民に対して医薬品情報を用いた適正な薬物治療に寄与できる仕組みを構築することとした。

【方法】

医薬品の適正使用を推進するために3つの「見える化」に取り組んだ。

- ① 組織の見える化（各分野の薬剤師による情報の集約化）
- ② 地域の見える化（調査研究活動の推進）
- ③ 活動の見える化（役立つ医薬品情報の発信）

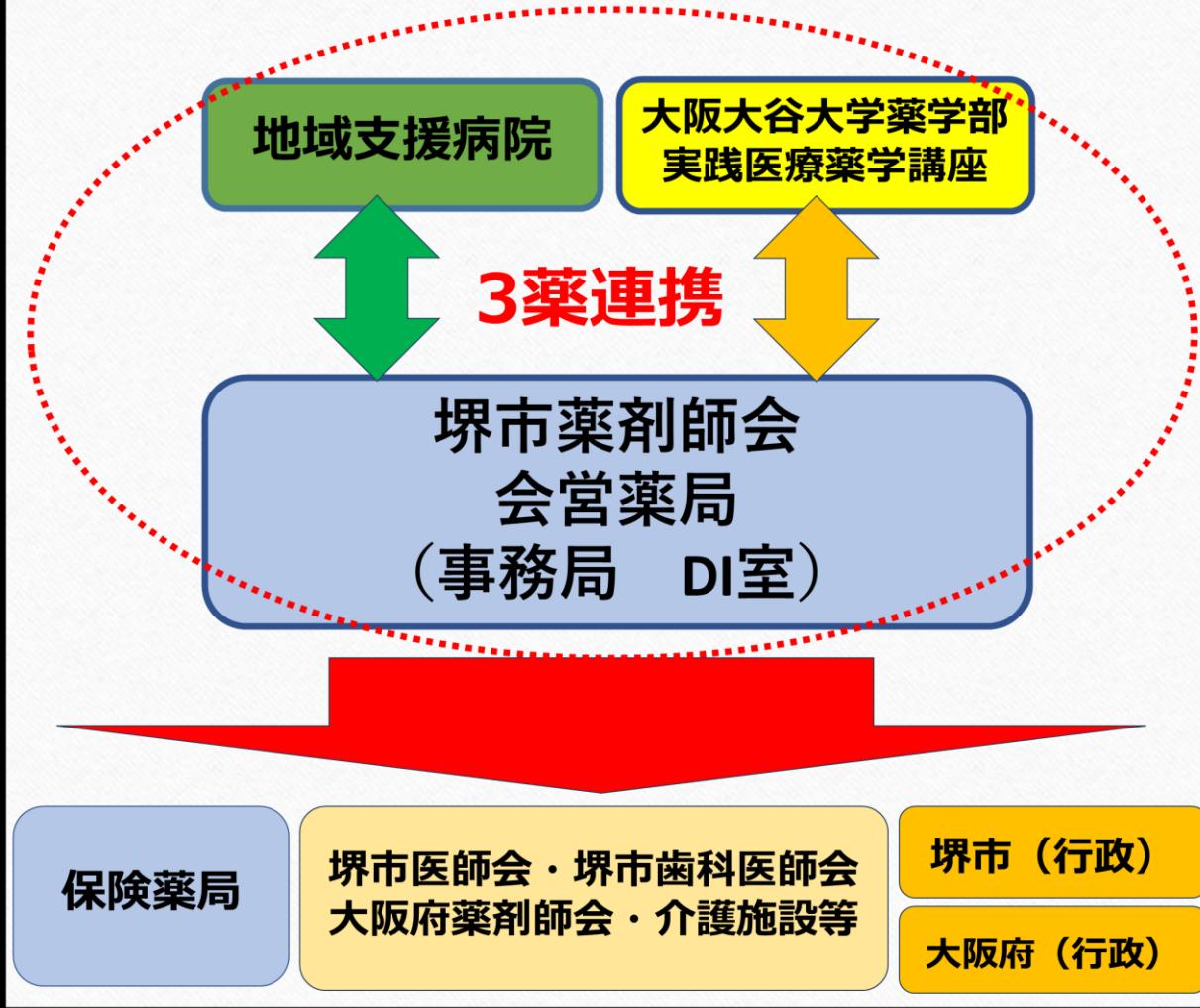
① 組織の見える化（各分野の薬剤師による情報の集約化）

堺市薬剤師会が中心に**さかい医薬品適正使用委員会**を設立した。

組織体制：堺市薬剤師会を中心とした3薬連携

堺市薬剤師会、堺市の地域支援病院（堺市立総合医療センター、大阪労災病院、耳原総合病院、ベルランド総合病院、馬場記念病院）および大学薬学部（大阪大谷大学薬学部実践医療薬学講座）と連携した委員会とした。

さかい医薬品適正使用委員会の組織体制 (地域全体を医療機関とした考え方)



② 地域の見える化（調査研究活動の推進）

地域を知るために多方面からの調査・研究活動を実施

- ジェネリック医薬品の実態調査：大阪府の調剤レセプト情報から
- 堺市内で発生した副作用、疑義照会事例の収集
- 調査研究：堺市のフレイルとポリファーマシーの関連性研究など

③ 活動の見える化（役立つ医薬品情報の発信）

情報共有ツールとして、「どたすけ通信」を発行

堺市薬剤師会会員、各基幹病院、堺市医師会、歯科医師会、自治体、多職種などに、年間3回発信している。

現在10号まで発刊。現在11号作成中。

どたすけ通信（右図）



どたすけ通信

現在10号まで発刊。毎号、医薬品分類をしづり情報を発信している。また、アンケートを実施する事により内容の見直し、進化を常にに行っている。

- 堺市における医薬品の現状分析
- 先発医薬品とジェネリック医薬品の薬剤比較
- 各種薬剤比較
- 堺市における疑義紹介事例
- 堺市における有害事象事例
- その他
調査研究の実施状況報告・統一トレーシングレポートの作成・周知など

さかい医薬品適正使用推進委員会を中心となり、医薬品適正使用を目的とした地域における状況を調査研究した成果（有害事象事例、ジェネリック医薬品情報、疑義照会事例、調査研究報告等）を、情報誌（どたすけ通信）を通じて、堺市内の医療施設や行政・介護関連事業所等と情報共有できる仕組みは構築できた（医薬品情報を利用した連携）。

今後は、この情報共有ツールを用いて医師会、歯科医師会および行政等と協力しながら、困ったときに役立つ「**地域に役立つ地域フォーミュラリ**」（**地域のお薬ガイド**）策定につなげていきたい。

ご清聴ありがとうございました

